

シェル・ショック (1988)

SHELL SHOCK
HELEM KRAV

メディア 映画

ジャンル ドラマ 戦争

製作国 イスラエル

時間 91分

公開情報 劇場未公開・ビデオ発売

【解説】

戦場で体だけでなく心に傷を負った還兵たちの、自分との戦いを描いたイスラエル映画。タイトルは戦争神経疲弊症を指す。

休戦が決まり喜びに沸くイスラエル軍の一小隊を突然火線が襲った。写真班のミハは記念撮影をしており偶然にも直撃を免れたが、親友サムチや戦友たちの突然の死が彼を一時的な記憶喪失に陥らせる。陸軍病院に収容されたミハを医師や恋人のタリは気遣うが、当のミハは心を固く閉ざしたままだ。だがミハは、友軍の爆撃を受けた事が原因で屋外に出る事が出来ない同室のギデオンを立ち直らせる。病院を脱走したミハはギデオンの家に転がりこむが、軍に復帰出来ずにいるギデオンの心は荒む一方だった。やがて自分に打ち勝つしかないと悟ったミハは当時のカメラを手にする。そして学校に犯罪者が立籠もるといふ事件が起きた時、またしてもミハの目の前で友がその命を落とすのだった……。

自分の内面を見つめるため、もう一度爆撃シーンを再現しそれをカメラに収めようとするクライマックスの主人公の姿はリアルな前半に比べ作劇色が強く、あまり頂けない気もするが、帰還兵の抱える問題が何もベトナム戦争だけでない事を痛感させてくれるだけでも意義のある作品と言えよう。音楽を含め作品の雰囲気は悪くない。ギデオンの妻に扮するのは「グローイング・アップ」の初代ヒロイン、A・アツモン。

【クレジット】

監督	ヨエル・シャロン	Yoel Sharon
製作総指揮	イエチール・ヨージェフ	Yechiel Yogev
	メール・アムサレム	Meir Amsalem
脚本	ヨエル・シャロン	Yoel Sharon
撮影	ヨアヴ・コシュ	Yoav Kosh
音楽	エドウィン・J・レイス	Edwin J. Reyes
出演	アシャー・ツァファティ	Asher Tsarfati
	ダン・ツルゲマン	Dan Turgeman
	アナト・アツモン	Anat Atzmon
	ジリ・ベン＝オジロ	
	スタニスラフ・チャップリン	Stanislav Chaplin